

## 第2次えひめ子ども健康サポート推進計画（案）の概要

### 1 第2次計画策定の趣旨

平成21年2月に「えひめ子ども健康サポート推進計画」を策定し、子どもの健康課題の解決に向けた取組を進めてきたところであるが、その後もグローバル化や情報化が急速に進展し、家庭の様相や社会が大きく変化し続けている。その中で生きていく子どもたちが抱える健康課題は年々複雑化し、課題解決が困難なケースも見受けられる。こうした中、多様化・深刻化する子どもの健康課題に適切に対応するためには、学校が中心となり、家庭、地域、関係機関等との連携を一層深めた取組が必要となっていることから、現行の計画を改定するものである。

### 2 構成の概要

#### (1) 8つの健康テーマの設定とそれに対する学校、県教育委員会等の取組状況

##### 【健康テーマ】

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ① 心の健康づくり     | ⑤ 歯・口の健康づくり             |
| ② 食を通じた健康づくり  | ⑥ 性に関する課題への対応           |
| ③ 適切な運動習慣の確立  | ⑦ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の推進 |
| ④ 望ましい睡眠習慣の確立 | ⑧ <u>ITメディアの健康への影響</u>  |

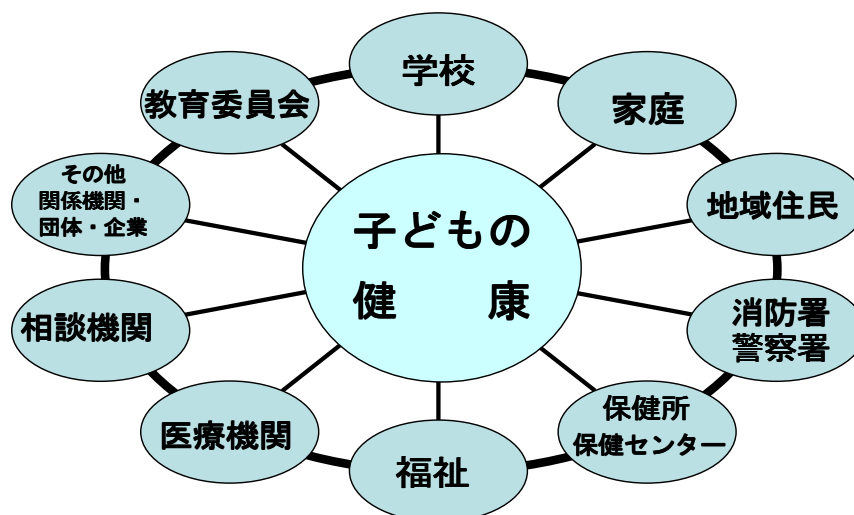
※情報化の進展を踏まえ、⑧のテーマを現行計画に追加

- ・ 各健康テーマにおいて、特に改善が必要と考えられる指標を5つ程度設定し、各指標の現状を学校に調査（H20・25・29年度に実施）し、その改善状況と今後の目標を掲載。
- ・ 各健康テーマにおける学校、県教育委員会、関係機関・団体の取組状況について
- ・ 各健康テーマにおける、今後の取組の進め方について

#### (2) えひめ子ども健康サポート体制の構築

県・市町教育委員会、学校、家庭、地域・関係機関・団体・企業等の関係者が「健康テーマ別指標」における現状と取組状況から、児童生徒の実態や学校保健に関する現状について共通理解を図り、これまで構築してきた連携体制を強化し、子どもの健康づくりを円滑に支援するための具体の取組を提示。

##### —支援体制のイメージ—



### 3 第2次計画の推進方針と評価

#### ① 第2次えひめ子ども健康サポート推進計画を関係者に周知

県教育委員会は、市町教育委員会、学校、家庭、地域、関係機関・団体・企業等、子どもの健康に関わる多くの関係者に本計画を周知する（平成29年度末）。



#### ② 市町教育委員会が取り組める仕組みづくり

県教育委員会は、市町教育委員会、学校、保護者、医療機関代表者等を対象に、計画の趣旨説明やモデル地域の実践報告、推進方針の検討を行う連絡会を開催し、市町教育委員会における取組を支援する。



#### ③ 市町教育委員会における推進

市町教育委員会は、地域学校保健委員会の設置又は既存の組織の活用により、子どもの健康課題について関係者が協議できる機会を設ける。協議において所管の学校における健康課題を集約し、取組について検討する。年度ごとに市町で健康テーマを設定し、子どもの健康課題解決に向けて取り組む。



#### ④ 学校における推進

学校は、学校保健計画を作成する際に、本計画や児童生徒、地域の実態を踏まえて学校保健目標・重点目標を設定する。計画・実施・評価を全教職員で行い、次年度への計画改善につなげる。



#### ⑤ 家庭、地域、関係機関・団体・企業等への啓発

県・市町教育委員会、学校は、本計画の推進に向けて、家庭、地域、関係機関・団体・企業等がそれぞれの特性を生かし、連携して取り組めるように、パンフレットやチラシ、イメージマークの活用等により啓発を行う。



#### ⑥ 計画の評価

県教育委員会は、8つの健康テーマにおける各指標を評価指標として設定し、平成29年度と平成34年度の状況について比較検証を行う。

### 4 計画の期間

平成30年度から34年度末までの5年間とし、34年度中に子どもの健康に関する事態調査等を実施し、その結果等を踏まえて第3次計画の策定を行う。

## 5 参考（健康テーマ別指標における現状と取組状況）

※空欄は、今年度、追加調査した項目

### ① 心の健康づくり

健康テーマ別指標		校種・学年	20年度	25年度	29年度
指標1	困ったり悩んだりした時に、気軽に相談できる人がいる	小学5年生	86.1%	89.3%	88.8%
		中学2年生	85.0%	87.7%	90.4%
		高校2年生	84.6%	90.2%	90.2%
指標2 NEW	嫌なことを言われたりされた時に「やめてほしい」という気持ちを相手に伝えることができる	小学5年生			80.2%
		中学2年生			83.5%
		高校2年生			83.6%
指標3	児童生徒の心の健康問題で支援した事例が解決・改善傾向にある（平成29年度：9月30日現在）	小学校	90.6%	90.2%	97.4%
		中学校	85.6%	89.4%	92.7%
		中等教育学校	85.7%	84.2%	85.5%
		高等学校	86.5%	86.9%	90.6%
		特別支援学校	92.5%	93.5%	81.2%

「児童生徒の心の健康問題の早期発見に向けた取組みを行っている」という指標が入っていたが、今回の調査で100%達成されたため、第2次の指標から外すこととした。他の2指標は概ね改善されており、どの指標も80%を超えている。今後100%を目指し、改善が図られるよう継続指導が必要。新たに指標2を追加。

### ② 食を通じた健康づくり

健康テーマ別指標		校種・学年	20年度	25年度	29年度
指標1	家で一日に一回は、*主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている	小学5年生	91.6%	92.4%	91.2%
		中学2年生	87.4%	91.5%	91.7%
		高校2年生	80.8%	87.0%	87.8%
指標2	朝食をほとんど毎日（週6日以上）食べている	小学5年生	86.4%	94.1%	93.6%
		中学2年生	80.1%	91.2%	90.1%
		高校2年生	84.9%	87.4%	86.4%
指標3 NEW	家でごはんを食べる時、家族の誰かと一緒に食べる	小学5年生			95.9%
		中学2年生			90.2%
		高校2年生			82.2%
指標4 NEW	(女子) 適正体重を維持していない (* 肥満度20%以上)：肥満	小学5年生			7.6%
		中学2年生			8.9%
		高校2年生			7.1%
		特別支援学校 (小5、中2、高2)			22.5%
	(女子) 適正体重を維持していない (肥満度-20%以下)：やせ	小学5年生			2.0%
		中学2年生			2.7%
		高校2年生			2.0%
		特別支援学校 (小5、中2、高2)			10.0%
	(男子) 適正体重を維持していない (肥満度20%以上)：肥満	小学5年生			11.0%
		中学2年生			8.4%
		高校2年生			7.4%
		特別支援学校 (小5、中2、高2)			18.8%
(男子) 適正体重を維持していない (肥満度-20%以下)：やせ	小学5年生			2.0%	
	中学2年生			2.3%	
	高校2年生			2.9%	
	特別支援学校 (小5、中2、高2)			9.4%	
指標5	食に関する年間指導計画に基づき組織的に食に関する指導を実施している	小学校	61.4%	93.7%	95.7%
		中学校	53.2%	88.7%	92.9%
		中等教育学校	66.7%	100.0%	100.0%
		特別支援学校	58.3%	88.9%	100.0%

「特に配慮を要するアレルギー疾患の児童生徒に対して、学校生活管理指導表等を活用して対応している」という指標が入っていたが、どの校種もほぼ100%に達成していたため、第2次の指標から外すこととした。他の4指標のうち3指標は改善し、どの指標も80%を超えている。朝食摂取者と適性体重者が100%になることを目指し、改善が図られるよう継続指導が必要。他の2指標は概ね改善されており、どの指標も80%を超えている。今後100%を目指し、改善が図られるよう継続指導が必要。新たに指標3、4を追加。

### ③ 適切な運動習慣の確立

健康テーマ別指標		校種・学年	20年度	25年度	29年度
指標1	週に3日以上運動やスポーツをしている(体育の授業を除く)	小学5年生	48.7%	67.6%	68.6%
		中学2年生	75.5%	78.4%	79.4%
		高校2年生	56.4%	59.8%	60.9%
指標2	運動やスポーツをすることが好きである	小学5年生	63.3%	92.7%	92.2%
		中学2年生	51.5%	90.0%	89.6%
		高校2年生	88.6%	87.1%	87.0%
指標3	スポーツ障害の予防に努めている	小学5年生	54.9%	55.2%	54.2%
		中学2年生	56.0%	55.6%	57.2%
		高校2年生	41.2%	47.4%	48.4%
指標4 NEW	週に1日以上休養日を設けている運動部	中学校			96.1%
		中等・高等学校			87.8%
		特別支援学校			100.0%
指標5	えひめ子どもスポーツITスタジアム事業に参加している	小学校	198校 56.2%	145校 45.7%	250校 89.9%

(小学校数：H20 352校 / H25 317校 / H29 278校)

参考 H20・25実施	月に4日以上休日を設定している運動部	中学校	20年度	25年度
		高等学校	57.2%	74.9%

5指標とも概ね改善されている。「運動やスポーツをすることが好きである」という指標について、高い割合で「好きである」と回答しているが、高止まりの様相を呈している。いずれの指標も今後100%を目指し継続指導が必要である。これまでの指標を参考とし、新たに指標4を設定した。

### ④ 望ましい睡眠習慣の確立

健康テーマ別指標		校種・学年	20年度	25年度	29年度
指標1	毎日、7時間以上睡眠をとっている(ただし、小学生は8時間以上)	小学5年生	87.3%	73.5%	72.1%
		中学2年生	53.8%	52.2%	54.1%
		高校2年生	27.8%	26.5%	26.2%
指標2	午前中、「ねむい」と感じる事がたびたびある	小学5年生	55.4%	56.4%	57.0%
		中学2年生	74.7%	74.5%	70.7%
		高校2年生	81.5%	82.9%	81.3%
指標3	寝る前の3時間は、カフェイン類を摂らないようにしている	小学5年生	47.0%	52.0%	53.3%
		中学2年生	45.0%	47.1%	53.1%
		高校2年生	41.3%	41.7%	48.0%
指標4	寝る前の1時間は、ゲーム・メール・インターネットをしないようにしている	小学5年生	60.4%	55.3%	52.4%
		中学2年生	33.2%	30.5%	28.2%
		高校2年生	14.7%	13.7%	12.8%
指標5	児童生徒に対し、睡眠と健康に関する保健教育を行っている	小学校		81.3%	94.2%
		中学校		80.5%	96.9%
		中等教育学校		66.7%	100.0%
		高等学校		61.3%	76.7%
		特別支援学校		66.7%	90.0%

4指標のうち「寝る前の3時間は、カフェイン類を摂らないようにしている」、「午前中、「ねむい」と感じる事がたびたびある」、という指標の改善が見られた。しかし、改善が見られた2指標は、100%が望まれるにも関わらず低い割合であった。残る2指標と合わせて、今後の改善が図られるよう継続指導が必要である。

### ⑤ 歯・口の健康づくり

健康テーマ別指標		校種・学年	20年度	25年度	29年度
指標1	1日に3回以上歯みがきをしている	小学5年生	61.2%	69.6%	75.3%
		中学2年生	47.7%	69.7%	76.3%
		高校2年生	27.8%	39.6%	50.7%
指標2	1人平均のう歯数	小学5年生	0.8本	0.6本	0.5本
		中学2年生	1.7本	1.2本	1.0本
		高校2年生	2.6本	1.8本	1.4本
		特別支援学校(小5、中2、高2)	1.7本	2.3本	1.6本
指標3	歯肉に炎症所見がある	小学5年生	18.7%	16.4%	16.3%
		中学2年生	26.6%	22.1%	21.6%
		高校2年生	25.5%	21.5%	22.5%
		特別支援学校(小5、中2、高2)	24.3%	51.6%	22.4%
指標4 NEW	フッ化物洗口を実施している	小学校			52.5%

3指標とも改善され、児童生徒の歯と口腔の状態は良くなっていることが分かる。今後も更なる改善を目指す。指標4を追加。

## ⑥ 性に関する課題への対応

健康テーマ別指標		校種・学年	20年度	25年度	29年度
NEW 指標1	体のことや異性についての悩みを相談できる人がいる	小学5年生			77.4%
		中学2年生	52.4%	54.9%	60.0%
	性に関する悩みを相談できる人がいる	高校2年生	51.2%	57.1%	58.9%
指標2	性に関する悩みを相談できる相談機関(窓口)を知っている	中学2年生	10.8%	12.2%	13.2%
		高校2年生	19.2%	21.4%	24.0%
指標3	性教育*の全体計画や年間指導計画に基づき、組織的に性教育*を実施している *第1次計画の指標の表記を使用している。性に関する指導と読み替えることとする	小学校	84.9%	89.0%	88.1%
		中学校	63.1%	73.7%	75.6%
		中等教育学校	33.3%	33.3%	20.0%
		高等学校	31.8%	30.6%	31.7%
		特別支援学校	41.7%	55.6%	70.0%

2指標で改善が見られたが、「性教育の全体計画や年間指導計画に基づき、組織的に性教育を実施している」という指標に力を入れて改善していく必要がある。改善のあった2指標についても更なる改善を目指す。

## ⑦ 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導の推進

健康テーマ別指標		校種・学年	20年度	25年度	29年度
NEW 指標1	たばこが体に悪いということを知っている	小学5年生			98.2%
		中学2年生			97.3%
	たばこが体に及ぼす影響を知っている	高校2年生			98.3%
NEW 指標2	喫煙による健康被害の指導内容を児童生徒が理解できている	小学校			98.9%
		中学校			99.2%
		中等教育学校			100.0%
		高等学校			100.0%
NEW 指標3	20歳になっていない人がお酒を飲むと体に悪いということを知っている	特別支援学校			70.0%
		小学5年生			95.1%
NEW 指標4	未成年が飲酒をすることで体にどのような悪い影響があるのか知っている	中学2年生			91.7%
		高校2年生			96.7%
		小学校			98.9%
NEW 指標5	未成年の飲酒による健康被害の指導内容を児童生徒が理解できている	中学校			100.0%
		中等教育学校			100.0%
		高等学校			100.0%
		特別支援学校			60%
NEW 指標6	覚せい剤など法律で禁止されている薬物が体に悪いということを知っている	小学5年生			97.8%
		中学2年生			95.9%
		高校2年生			98.4%
NEW 指標7	覚せい剤など法律で禁止されている薬物を使用すると体にどのような悪い影響があるのか知っている	小学校			98.2%
		中学校			100.0%
		中等教育学校			100.0%
		高等学校			98.3%
		特別支援学校			60.0%
指標7	薬物乱用防止教室を開催している	小学校	62.2%	81.1%	88.1%
		中学校	90.1%	100.0%	100.0%
		中等教育学校	33.3%	100.0%	100.0%
		高等学校	71.2%	100.0%	100.0%
		特別支援学校	8.3%	11.1%	10.0%

「受動喫煙防止策として、学校敷地内完全禁煙を実施している」という指標が入っていたが、どの校種も100%に達していたため、第2次の指標から外した。「薬物乱用防止教室を開催している」割合は改善が見られ、100%に近いが、全ての校種が100%になることを目指す。

⑧ ITメディアの健康への影響【新規】

健康テーマ別指標		校種・学年	29年度
指標1	*ITメディアの一日の使用時間を決めている	小学5年生	49.4%
		中学2年生	32.8%
		高校2年生	15.2%
指標2	ITメディアを見る時、画面から出ているブルーライトが目や睡眠に悪い影響があることを知っている	小学5年生	75.6%
		中学2年生	89.0%
		高校2年生	95.0%
指標3	ITメディアの使用について、家庭と連携を図り協力体制を構築している	小学校	95.3%
		中学校	91.3%
		中等教育学校	100.0%
		高等学校	81.7%
		特別支援学校	100.0%
指標4	情報モラル教育を計画的、組織的に実施している	小学校	93.5%
		中学校	96.9%
		中等教育学校	100.0%
		高等学校	98.3%
		特別支援学校	100.0%

\* ITメディア : 携帯電話・パソコン・ゲーム・テレビ・DVD等

社会は急速な情報化の一途をたどり、学校でもICT機器を積極的に活用することになってきており、児童生徒の生活とITメディアは切り離すことができない関係にある。健康への影響も視力低下、眼精疲労、姿勢の悪さ、ストレス、依存症、睡眠不足等多岐に渡り、新たな健康テーマとして、設定することとした。